

見て、知って、誰かに話したくなるコミュニティ情報紙



# FUTABANOVA

ふたばのわ

Vol.149  
2026.3.15



初午祭～継承の想いを胸に～ .....	P.2
「第2回干支祭り」開催 .....	P.3
双葉町結ぶ会 餅つき大会 ふたばみんな食堂 .....	P.4
町内の放射線モニタリング情報 .....	P.4

## 今月の表紙

今月の表紙は、「初午祭」で行われた三字芸能保存会による神楽奉納の様子です。獅子舞の力強い演舞に、集まった人々は皆、真剣に見入っていました。震災前から大切に守られてきた伝統が、今年も地域に脈々と受け継がれています。当日の様子はP.2にて掲載しています。ぜひご覧ください。

# 初午祭 ～継承の想いを胸に～

2月1日、三字地区の前田稲荷神社で「初午祭」が執り行われました。

初午祭は、2月最初の午の日に全国の稲荷神社で行われる、五穀豊穣や商売繁盛、家内安全を祈願する伝統行事です。前田稲荷神社では、東日本大震災の影響で長らく休止を余儀なくされていましたが、2023年に約12年ぶりに再開され、以降、地域の恒例行事として毎年開催されています。

厳かな神事に続き、境内では伝統芸能が奉納されました。三字芸能保存会による神楽や前沢の女宝財踊保存会による優雅な舞が披露され、集まった人々を魅了しました。

当日は小雪が舞う冷え込んだ天候となりましたが、会場には町内外から多くの参拝客が訪れ、再会を喜び合う声が続きました。参拝を終えた人々は、振る舞われた甘酒で冷えた体を温めたり、おみくじを引いたり、思い思いの時間を過ごしていました。また、今回初の試みとして行われた「餅まき」では、紅白の餅をめがけて子どもも大人も元氣よく手を伸ばし、会場は大きな歓声に包まれていました。

地域の伝統を守り抜く初午祭は、厳しい寒さを吹き飛ばすような笑顔と活気に満ちた一日となりました。



三字芸能保存会 会長

岩川 孝一さん

三字の神楽は歴史が古く、保存会も私たちより二世代ほど前から受け継がれてきました。

震災後に獅子頭を新調し、2018年の「ふるさとの祭り」出演を機に、現在まで活動を続けています。初午祭には震災前から毎年参加しており、これからは変わらず奉納し続けたいと思っています。今年も子どもが多いと聞き、神楽だけではなく初めて「餅まき」も企画しました。伝統を守る一方で、若い世代にも関わってもらえるような、新しい取り組みも必要だと感じています。



前沢の女宝財踊保存会 会長

半谷 八重子さん

前沢の女宝財踊は約700年の歴史を持つとされる、地域の大切な伝統芸能です。

かつては男性が踊っていましたが、現在は私たち女性だけで守り続けています。震災前から毎年初午祭で奉納してきました。地元で踊ると安心感があり、改めて故郷だと感じてほっとします。この踊りがあるからこそ仲間とのつながりも続いてきました。伝統を絶やしたくないという強い想いを胸に、後継者を育てながら、これからも毎年初午祭で舞い続けていきたいです。



# 双葉といわきをつなぐ「第2回千支祭り」開催

1月31日、いわき市の復興公営住宅 勿来酒井団地にて「第2回千支祭り」が開催されました。東日本大震災以降、いわき市勿来地区では、双葉町民有志の「夢ふたば人」主催による「ダルマ市 in なこそ」が行われてきました。2023年にダルマ市の開催地が双葉町へ戻ったことを受け、新たな形として昨年からはまったのが、この「千支祭り」です。

開会式では、平岩邦弘副町長、高萩文孝副議長、勿来酒井団地の小川貴永自治会長が祝辞を述べ、双葉町民といわき市民の交流が今後も継続し、つながりがさらに深まっていくことへの期待が語られました。

特設ステージでは、双葉町を盛り上げる活動を行っているアーティストのたかはしごうさんによるパフォーマンスなどが披露され、会場は大いににぎわいました。客席は多くの来場者で埋まり、歌声に合わせて歓声と拍手に包まれました。後半のカラオケ大会やビンゴ大会では、豪華景品をかけてステージ前に人だかりができるなど、最後まで賑わいが絶えませんでした。

形を変えてもなお続くこの催しは、双葉町民といわき市民の地域を超えたつながりが息づく場となっています。



たかはしごうさんによるステージイベント



ビンゴ大会を楽しむ来場者

来場者

## 山本 美雅さん



初めての来場でしたが、双葉町民の知り合いだけでなく、いわき市の方も大勢いらして驚きました。これほど多くの方が千支祭りを楽しみにされていたことを知り、双葉町民として誇らしい気持ちです。また、福田さんたち夢ふたば人の皆さんの積み重ねてきた活動の大きさを感じました。伝統のダルマ市とはまた違った魅力のあるイベントだと思います。



夢ふたば人 事務局長

## 福田 一治さん



双葉町に戻れない方もいるなか、「千支祭り」としてイベントが続いているからこそ顔を合わせられる町民もいます。会場では声をかけてくださる方も多く、ここが交流の場になっていると感じています。まずは千支が一巡する12回の開催を目標に、双葉といわきで育まれた、人と人とのつながりを、これからも大切にしていきたいです。



## 双葉町結ぶ会餅つき大会

2月8日、駅西住宅集会所にて双葉町結ぶ会による「餅つき大会」が開催され、町民ら約70人が集まりました。

準備段階から参加者が協力し、餅に合わせる具材の仕込みなどを和やかな雰囲気で行いました。餅つき機で丁寧にごねた餅を木臼に移すと、いよいよ本番の餅つきがスタート。参加者が交代で力強く杵を振る、親子で息を合わせて餅をつく微笑ましい姿も見られました。

つきたての餅は、定番のあんこやきなこのほか、大根おろしやじゅうねん（えごま）に絡めた食べ方でも提供されました。さらに、具だくさんの雑煮や、辛味の効いたにんにく醤油も振る舞われ、参加者は多彩な味を楽しんでいました。

子どもたちからは「餅をつくのが楽しかった」と元気な声も聞かれ、協力して用意した出来たての餅を囲み、地域住民の絆を深める貴重な機会となりました。



## 憩いの場ふたばみんな食堂

2月13日、駅西住宅集会所にて任意団体「ふたばネクストライフ」による「ふたばみんな食堂」が開催されました。

この活動は、子どもから高齢者まで地域の人々が共に食卓を囲める場所を作ろうと昨年10月から始めました。現在は、毎月第2金曜日に温かな食事を提供しています。

この日のメニューは双葉町で採れた白菜やごぼう、にんじんを使った「けんちんうどん」。会場には町民約50人が訪れ、会話を弾ませながら、食事を楽しんでいました。食堂を訪れた女性は「みんなで集まって食べると楽しいです。いつもより食が進みます」と、笑顔を見せていました。

運営に携わる高久田祐子さんは「提供する側も、みんなで準備するのが楽しいです。これからもご近所さん同士で食事や会話を楽しめる交流の機会を大切にしていきたいです」と語りました。

会場は幅広い世代が集い、家族のような温かな雰囲気に包まれていました。



## 町内の放射線モニタリング情報

町内の放射線モニタリング情報は右のQRコードよりご確認ください。  
測定値は随時更新中です。

詳細はこちらから  
ご覧ください。→

